

令和7年度 地域おこし協力隊 活動報告

観光推進（サイクルツーリズム担当） | 令和8年3月6日 | 小林 昭広





令和7年度 地域おこし協力隊活動 報告

辰野町では自然資源や歴史文化を活かした観光振興が求められています。本年度は自転車を活用した観光推進に加え、拠点整備や人材育成、安全講習など基盤形成に重点を置き活動しました。

本資料では、1年間の取り組みと成果、今後の展望についてご報告します。

観光推進

サイクルツーリズム

令和7年度

自己紹介・ミッション



小林 昭広

地域おこし協力隊（観光推進担当）として辰野町に着任。自然体験ガイドとして全国各地で活動した経験を持ち、自転車を活用したまちづくりに取り組んでいます。

ミッション

→ ツアー運営

地域の歴史・自然を体験するサイクリングツアーの企画・実施

→ 人材育成

ガイド・メカニック等、観光担い手の育成

→ 拠点整備・情報発信

受入環境の整備と観光情報の継続的な発信



辰野町の概況と課題

★ 強み・資源

- ホタルの里として全国に知られる豊かな自然環境
- 山・川・歴史街道など多彩な自然・文化資源
- 静かな生活道路と原風景がサイクリングに最適
- マップ・看板・サイクルスタンド等の整備が進展

⚠ 課題と対応方向

- 観光情報の発信力不足 → SNS・広報連載で補完
- 体験型・広域周遊型への需要変化への対応
- 拠点整備と関係人口づくりの仕組み化
- 持続的な運営を支える担い手の確保

サイクルツーリズム推進の重要性

自転車は、地域を深く知る最高の手段。ゆっくり走るからこそ出会える景色や人がある。サイクルツーリズムは地域の魅力を余すことなく体感する鍵となる。

自転車冒険家小口良平（辰野町サイクルツーリズムアドバイザー）



地域経済への波及効果

宿泊・飲食・レンタルなど、地域の様々な産業に経済効果をもたらします。



スポーツ・健康志向の高まり

健康意識の高まりとともに、アクティブな観光スタイルへのニーズが増加しています。サイクリングは健康増進と観光を両立できる理想的な活動です。



持続可能な観光

環境負荷が少なく、地域密着型の旅行形態として、SDGsの観点からも注目されています。地域の自然や文化を尊重した観光スタイルを提供できます。

国内外のサイクルツーリズム市場は拡大しており、ヨーロッパでは年間約44億ユーロ規模、しまなみ海道（広島～愛媛）は年間約30万人以上のサイクリストが訪れています。辰野町でも地域経済への波及や長期滞在型観光への移行が期待されています。



今年度の業務の流れ

今年度は5つの柱を中心に活動しました。これらは相互に連携し、ツアー実践の成果を広報・人材育成に還元しながら拠点機能を強化する**循環型**の業務構造となっています。

①拠点運営・整備

白木屋サイクルステーションの整備と運用

⑤協議会・行政連携

観光協議会活動・自治体との協働



②人材育成

グラバイスクール・メカニック・安全講習

③観光ツアー運営

中山道・伊那谷広域サイクリングツアー

④広報発信

SNS・広報誌・情報コンテンツ制作



拠点整備：白木屋サイクルステーション

商店街の空き店舗「白木屋」を活用し、観光拠点・サイクルステーションとして整備を進めました。清掃・廃棄物処理から備品整備まで段階的に環境を整え、ツアーオリエンテーションの場として活用することで観光客・参加者の受入体制が大きく向上しました。



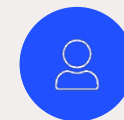
清掃・廃棄処理

空き店舗を安全に利用できる状態に整備



備品・設備整備

自転車対応備品・案内ツール等を配備



観光の拠点（ハブ）機能

キャンプ・イベント集合場所として多目的活用

□ 拠点があることで地域との接点も増え、観光の"ハブ"としての役割を見据えた運営が可能になりました。商店街の活性化にも波及効果が期待されます。

人材育成：グラバイスクール・メカニック講習

自転車まちづくりの担い手を育てる実践型研修に、スタッフとして参加・運営に携わりました。全国規模のネットワーク形成と地域内の知識共有の両面で成果を上げました。



グラバイスクール

ガイド技術・リスクマネジメント・地域資源の編集をテーマに学ぶ全国規模の実践型研修。受講者同士のネットワーク形成が進みました。



メカニック講習

自転車の整備・修理に関する実践的な技術講習。地域内での安全な自転車利用を支える知識を共有しました。



安全講習

観光ツアーや地域利用の安全管理に直結する講習。警察署との連携も含め、実践的な安全知識の習得を進めました。

観光ツアーの実践

実施ツアー

初期中山道サイクリングツアー（岡谷・辰野・塩尻）

歴史街道を自転車で巡り、地域の歴史・文化を体感するルートを提供。ガイド業務・企画運営を担当しました。

伊那谷広域ツアー（伊那～辰野ガレットサイクリング）

食文化と自転車を組み合わせた広域周遊型ツアー。自治体視察受入や企画立案にも携わりました。

ツアーを通じた成果

- 地域の歴史・食文化を体験として提供し高評価を獲得
- 広域連携による新たな観光商品の可能性を実証
- 参加者のリピーター化・関係人口創出への手応え
- 自治体視察受入により行政との連携強化



自転車文化の形成：日常利用と教育

観光利用だけでなく、通勤・通学・子どもの教育など日常生活における自転車文化の醸成に取り組みました。観光と日常が連続することで、地域全体に自転車が根付く環境をつくります。



自転車教室の企画

子どもたちが安全に楽しく自転車に親しめる教室を企画。地域の次世代が自転車文化を担う基盤をつくります。



日常利用の推進

通勤・通学での自転車利用を後押しし、健康増進・環境負荷軽減・地域との関わりを育む日常習慣として定着を促しました。



地域発見の機会創出

自転車をきっかけに地域の風景・人・文化と出会う体験を提供。観光利用の拡大につながる文化的土台を育てています

安全管理と地域理解の推進

安全講習会の取り組み

協議会主催の安全講習会では地元警察署と連携し、交通ルール・事故防止・緊急時対応について実践的に学びました。観光客と地域住民が安心して共存できる環境づくりに直結する取り組みです。

- 警察署との共催による交通安全講習
- ツアーガイドとしての資格・研修取得
- リスクマネジメント能力の向上

安全がもたらす効果

観光の信頼性向上

安全な運営実績が参加者・主催団体からの信頼につながります。

地域共生の促進

観光客・地域住民・子どもが安心して自転車を使える環境を整備します。

担い手の育成

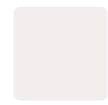
安全知識を持つ地域スタッフの育成が持続可能な運営を支えます。





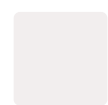
広報活動と情報発信

発信の取り組み



広報連載

活動の経緯や地域資源の魅力を定期連載として執筆。町内住民への理解促進と観光への関心喚起に貢献しました。



SNS発信

現場の様子やツアー情報をリアルタイムに発信。町外からの関心を高め、参加者募集・事業周知に効果を発揮しました。

広報がもたらす価値

- 観光情報の「見える化」による認知度向上
- 町内外の理解促進と事業への共感醸成
- 参加者募集・リピーター獲得への貢献
- 継続的な発信が観光基盤を支える重要インフラに

情報発信は単なる宣伝ではなく、地域の魅力を掘り起こし、町外の人々と辰野町をつなぐ重要な橋渡し役です。

成果と波及効果

拠点整備・人材育成・ツアー実践を組み合わせた活動により、観光の受入体制が着実に整いました。イベント単発ではなく、**継続的な仕組み**として定着し始めたことが本年度最大の成果です。

10+

運営ツアー数

中山道・伊那谷広域など複数のサイクリングツアーを実施

全国

参加者の広がり

グラバイスクール等を通じ全国から参加者が集結

1拠点

サイクルステーション

白木屋を観光ハブとして整備・運用開始

5柱

業務の柱

拠点・育成・ツアー・広報・連携が循環する体制を確立

今後の展望

1 拠点機能の強化

白木屋の観光拠点やサイクルステーションとしての運用を充実させ、より多くの観光客・地域住民が活用できる開かれた拠点へと発展させます。

2 ツアー商品の充実

広域連携・食文化・歴史など多彩なテーマのツアーを拡充し、辰野町ならではの体験価値を磨き上げます。

3 子ども向け自転車教室

地域の子どもたちへの自転車教室を本格展開し、次世代の自転車文化の担い手を育てます

4 持続可能な体制構築

協力隊卒業後も運営が継続できるよう、地域内の担い手・人材ネットワークを活用した自立的な仕組みをつくります。

□ また観光推進の一環として、広報発信・自然資源を活用したイベント・ほたる観光をはじめとした観光イベントへの協力も積極的に進めてまいります。



まとめ：辰野町サイクルツーリズムの一年

令和7年度は、辰野町のサイクルツーリズム推進において基盤形成の年となりました。拠点・人材・ツアー・広報・連携の**5つ**が有機的に循環する仕組みが生まれ、持続可能な自転車まちづくりへの確かな一歩を踏み出しました。

商店街の空き店舗を活用した白木屋サイクルステーションが観光ハブとして機能し始め、地域との接点が増えました。全国規模の研修と地域内講習を通じて人材ネットワークが広がり、担い手の育成も着実に進みました。歴史・食文化を体験する観光ツアーが実践され、参加者から高い評価を得ました。**SNS**・広報を通じて辰野町の魅力が町内外へ継続的に発信されました。

次年度も地域の皆さまと連携しながら、辰野町らしいサイクルツーリズムモデルの確立を目指してまいります。ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

感謝・協力者紹介

本年度の活動は、サイクルツーリズム推進協議会をはじめ、町関係部署の皆様、地域事業者、ガイド仲間、全国の自転車まちづくり実践者の皆様との協働により進めることができました。

白木屋サイクルステーションの整備やツアー運営、人材育成事業などを通じて、観光の受入体制やネットワーク形成が少しずつ形になってきたと感じています。

地域の皆様に温かく受け入れていただいたこと、イベントや研修に参加してくださった方々の存在が、活動の大きな支えとなりました。

今後も関係者と連携しながら、辰野町らしい持続可能なサイクルツーリズムの基盤づくりに取り組んでいきます。

ご支援・ご協力ありがとうございました。

令和7年度 地域おこし協力隊 活動報告

観光推進（サイクルツーリズム担当）

辰野町地域おこし協力隊 | 小林 昭広 | 令和8年3月6日

辰野町

サイクルツーリズム

地域おこし協力隊